

新任教授による
基礎と臨床のジョイント手弁当ランチオンセミナー
令和4年2月15日（火）12時15分から30分

※zoom開催 <https://zoom.us/j/99543169342> パスコード：461393
ご質問は、下記アドレスまでお問い合わせください。

キリン（基礎・臨床）がまた来る！

学生から医師・歯科医師、シニア教官まで、全員ウエルカム
ついでに、ラボ・医局も覗きにいこう！！



石野 智子教授（寄生虫学・熱帯医学分野）
マラリア原虫感染の分子基盤の解明に向けて

マラリアは、現在でも世界中で40万人を超える人々が亡くなる感染症です。2021年には、WHOが初めてのマラリアワクチンの使用を推奨するという大きなニュースがありました。乳児に4回免疫が必要なワクチンですが、重症化抑制効率が40%に留まります。さらに効果的なワクチン開発に向けた論拠を提供するために、原虫感染の分子基盤の解明を目指しています。

蚊の吸血によって人の皮膚内に打ち込まれたマラリア原虫は、能動的に肝細胞へと到達し感染を成立させます。原虫がどのように肝細胞へと移動し、侵入し、肝細胞内で数万倍にも分裂できるのか。そもそも媒介蚊の体内でどんなメカニズムで感染型原虫が形成されるのか。それぞれのプロセスに関わる原虫分子の同定を通じて明らかにしてきた寄生戦略と、今後の展開についてお話したいと思います。

具 芳明教授（感染症内科・統合臨床感染症学分野）

AMR対策のこれまでとこれから

20世紀後半は抗菌薬の開発とともに医療が大きく進歩しました。しかし、抗菌薬開発の歴史は薬剤耐性（Antimicrobial resistance: AMR）克服の歴史でもありました。近年は薬剤耐性の機序が複雑になる一方で新薬開発の勢いが落ち、既存の抗菌薬を大切に使うことが重要となっています。AMRの広がりにはsilent pandemicと称される状況です。

私たちは臨床現場で抗菌薬の適正使用を実践するとともに、データに基づいた対策を行うための基盤整備に取り組んでいます。抗菌薬使用の多くは外来での処方であることから、日本の外来診療における抗菌薬使用の現状を把握するとともに、医療従事者や市民向けの教育啓発を進め、感染症に関する知識やスキルの底上げを目指しています。今回はAMR対策全体の流れと取り組みを中心にお話いたします。



【連絡先】 医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野
浅原弘嗣 （内線：5015）
事務アドレス：asahara-sec.syst@tmd.ac.jp